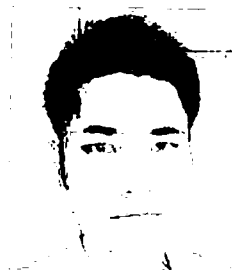


新年にあたって

福祉政策研究の視点とスタンス

垣田 裕介 (大分大学大学院福祉社会科学部研究科講師、国民医療研究所研究員)



新たな年を迎えるにあたり、私が昨年(05年)に手掛け初めた作業を振り返り、それをブリッジ(つなぎ)として、本年(06年)の予定などにふれたい。

福祉政策研究の視点とスタンス

私はこれまで主に、ホームレスなどの貧困問題や医療・介護の行財政を対象とした実証的研究に携わってきた。昨年は新たな試みとして、福祉政策を勉強・研究する視点とスタンスについて、以下の拙稿において率直な疑問やコメントを提示した。

- ◆「福祉政策における『戦時』と『平時』」(『大阪保険医協会雑誌』No.463, 05年9月)
- ◆「福祉供給の根拠について——福祉政策研究のための予備的作業」(『医療政策学校』No.1, 本の泉社, 05年11月)

まず前者では、政策担当サイドの行動原理は何かの理念や規範に一貫して従うほど単純ではないとして、政策決定の恣意性や偶然性への着目を喚起した。また、事実認識と価値判断とを峻別して分析・叙述する必要性を強調し、何をどのようにすべきかという当為(ゾレン)を安易に導き出す態度に注意を促している。

次に後者では、福祉に関する個別の法制度の形成・展開という経験的事象について、その根拠に普遍的説明を与えようとする議論への疑義を提示している。さらに、福祉政策・行政のありように対して改善を要求する際の根拠(例えば、人権や生存権)についても、率直な疑問とコメントを示した。

なお、これら拙稿に対して、なかには草稿の段階で、幾名の方から貴重なコメント等をいただき、新たなヒントや刺激を得ることが

できた。お礼申し上げたい。

「貧困と病気の世界史」と「現代の福祉政策」先の拙稿の後者では、その主題の検討を進める手がかりとして、福祉領域の政策決定過程への目配りや、史資料を用いた実証的分析のレビューなどを挙げている。いずれにせよ地道な勉強が必要とされるため、この際に福祉政策の歴史を勉強し直そうと考えた。そして、それならば福祉政策の対象となる貧困や疾病の歴史から取り掛かろうと、勢いよく文献を集めて読み始めた。

そこで、そのテーマを次年度の教養科目で扱おうと、「貧困と病気の世界史」という堂々たる講義タイトルを掲げたものの、シラバスの中身が煮詰まらず、ひとまずは自習に励むことにした。

結局のところ、講義タイトルは一転して「現代の福祉政策」となり、この間の社会保障改革の動向と論点を扱うことにした。

勉強と研究の技法・スタンス

先の拙稿の執筆時期に前後して、勤務先の先輩からの薦めもあり、二木 立氏(日本福祉大学)の一連の著作をあらためて読む機会を得た。医療経済・政策研究者である同氏の著作のなかでも、あえてここで紹介するのは、「資料整理の技法と哲学」(『月刊/保険診療』03年11月号~04年3月号)である。

私は、そこで具体的に示されている勉強・研究の技法にふれ、そのうちのいくつかを参考にして励行するようになった。なるほど効果を自覚できるものもある。そして、勉強・研究の技法にとどまらず、私自身の日常生活のありようについても見直す契機となった。そこでとかく記されているわけではないが、私は、十年來の喫煙を打ち切った。